

冷や汗ダラダラの 議会デビュー&失敗第1号

【第1回】



新連載

これで万全!

はじめての 議会答弁

田村一夫

たむら・かずお 1951年生まれ。明治学院大学法学部卒業。73年、東京都多摩市役所入庁。企画・財政・秘書広報・人事等の部門の管理職を経て、副市長に就任。2009年退職。管理職、副市長としての25年間にわたる議会答弁の経験に基づき、議会対応のスキルを提供する。また、職員採用の面接官の実績を生かし、「公務員試験 必勝倶楽部」で公務員志望者の面接指導にあたる。

私の議会答弁デビューは33歳で防災消防担当副参事になった時だった。常任委員会で「地域配備消火器のことを質問するから」と議員に言われ、何を聞かれても大丈夫と準備万端整えて委員会室で待機していた。しかし、初めて入る委員会室、緊張感漂う雰囲気、それだけで喉がカラカラになった。

結局、この時は質問されず私の議会準備は空振りに終わった。終わってから、このように資料準備の時間がある恵まれた状況ではなく、突然質問されたらどうなるのだろうかと思然と考えた。

実際の議会答弁はその年の決算委員会。「消防団の運営に関わる経費で地元の自治会がどのくらいの負担をしているのか」というA議員からの質問に対し、手元に資料がなく頭の中が真っ白状態、どうしたらよいかわからずオロオロしてしまった。議会議事録に残っている私の最初の答弁は「ただいま資料が手元ございませんので、しばらくお待ちをいただきたいと思います」。恥ずかしいことに、これも部長に指示されてやっと発言できたのだった。慌てて資料を探している間、決算項目の消費費関連質疑が続けられ、

それへの対応もあり必死だった。しばらくして「防災行政無線の調査内容について」と別の議員の質問に移った時によくやく資料が間に合った。

しかし、A議員の質問は終わっているのでもうしたらよいかわからず、これも部長に指示されて「まずA議員さんの先ほどのご質問、大変時間をとらせて申しわけございます。自治会の負担でございしますが、多いところで37%くらいの負担に、

また少ないところでは3%程度の自治会負担になっているようにございます。続きまして防災行政無線の関係でございますが……と、両方の質問に答える羽目になった。

12月議会にもかかわらず冷や汗ダラダラ状態で議員の顔をまともに見ることができなかった。こうして決算議会は何とか乗り切ることができたが、部長からは「まあ最初だからそんなもんかな。でも議員に『さん付け』する必要はないよ」と言われた。議会答弁は一つずつ勉強の積み重ねだと思った。

また、後日、A議員からは「過去にも質問しているのだから調べておくのは当たり前じゃないのか」と睨まれ、それ以降も同じ質問を数回繰り返された。この消防団の運営費問題

は過去にも議会で質問されており、事前に気が付いていればこんなことにならなかったと反省した。これが私の失敗第1号であった。

この失敗経験が過去の質疑を調べると、資料準備の必要性を痛切に感じたきっかけだ。落ち着いて答弁できるようになるまでにはだいぶ時間がかかったが、事前の資料準備ときちんとした答弁には相関関係があると思う。

このほかにも部長からは様々なことを教わった。答弁の枕詞は「お答えします」ではなく「ご説明します」の方がよいだろうと言われたことが印象に残っている。確かに質問に答えられない時もあるので「ご説明します」が正解なのかなと納得して、それ以降、課長職当時は「ご説明します」で統一した。この枕詞を言えるだけでも自然体で議会答弁ができるようになった。

私は、初答弁から副市長として多摩市を去るまでの25年間にわたって議会答弁を経験してきた。本連載では、失敗談も織り交ぜながら、私なりに執行部職員による議会対応の「コツ」を提供したい。この連載を読んで皆さんも議会答弁のスキルを身につけてほしい。